

イーストスプリング・
インドネシア債券オープン
(毎月決算型) / (年2回決算型)

追加型投信 / 海外 / 債券

受益者のみなさまへ

平素は格別のお引立てにあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、主としてインドネシアの債券に投資を行う投資信託証券に投資を行い、インカム・ゲインの確保および中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。当作成対象期間につきましてもこれに沿った運用を行ってまいりました。ここに、その運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜われますよう、お願い申し上げます。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

〒100-6905

東京都千代田区丸の内2-6-1丸の内パークビルディング

<https://www.eastspring.co.jp/>

[お問い合わせ先]

電話番号：03-5224-3400

(受付時間は営業日の午前9時から午後5時まで)

当ファンドは、信託約款において運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供することを定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順で閲覧、ダウンロードすることができます。なお、書面をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

ホームページにアクセス ⇒ 「ファンド情報」を選択 ⇒ ファンド名を選択 ⇒ 「目論見書・月報・運用報告書等」の「運用報告書(全体版)」を選択

作成対象期間 2021年8月19日～2022年2月18日

(毎月決算型)

第113期 2021年9月21日決算 第116期 2021年12月20日決算

第114期 2021年10月18日決算 第117期 2022年1月18日決算

第115期 2021年11月18日決算 第118期 2022年2月18日決算

(年2回決算型)

第8期 2022年2月18日決算

(毎月決算型)

日経新聞掲載名: ネシア債

第118期末	基準価額	4,409円
	純資産総額	11,398百万円
第113期～ 第118期	騰落率	7.4%
	分配金合計	180円

(年2回決算型)

日経新聞掲載名: ネシア債年2

第8期末	基準価額	12,296円
	純資産総額	242百万円
第8期	騰落率	6.7%
	分配金合計	0円

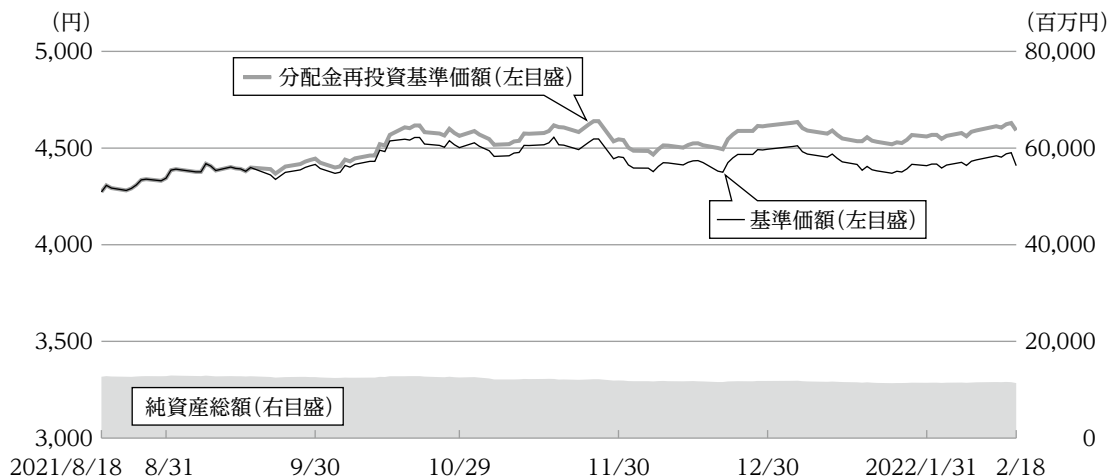
(注)騰落率は分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

運用経過

(毎月決算型)

基準価額等の推移について

(2021年8月19日～2022年2月18日)



第113期首	4,273円
第118期末	4,409円 (既払分配金180円)
騰落率	7.4% (分配金再投資ベース)

(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについては、お客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様1人ひとりの損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額は、作成期首の値が基準価額と同一になるように指数化しております。

基準価額の主な変動要因

当作成期の基準価額は上昇しました。

上昇要因

・インドネシアルピアが対円で上昇したこと。

1万口当たりの費用明細

(2021年8月19日～2022年2月18日)

項目	第113期～第118期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	27円	0.604%	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率 作成期間の平均基準価額は、4,436円です。
(投信会社)	(9)	(0.198)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(17)	(0.394)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、 購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(1)	(0.013)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	0	0.010	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
(監査費用)	(0)	(0.007)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(印刷)	(0)	(0.003)	目論見書および運用報告書等の法定開示書類の作成費用等
合計	27	0.614	

(注1) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

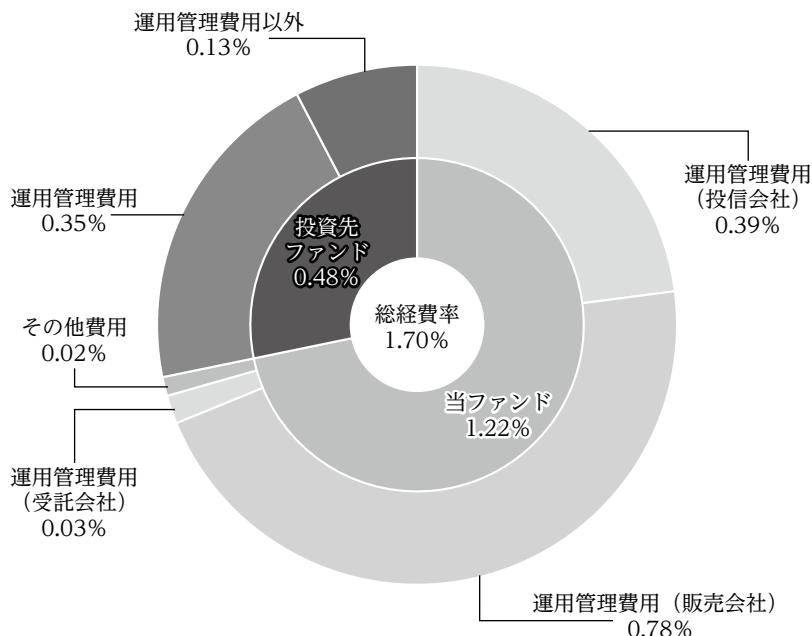
(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注4) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(参考情報)

■総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.70%です。



総経費率 (①+②+③)	1.70%
①当ファンドの費用の比率	1.22%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.35%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.13%

(注) ①の費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

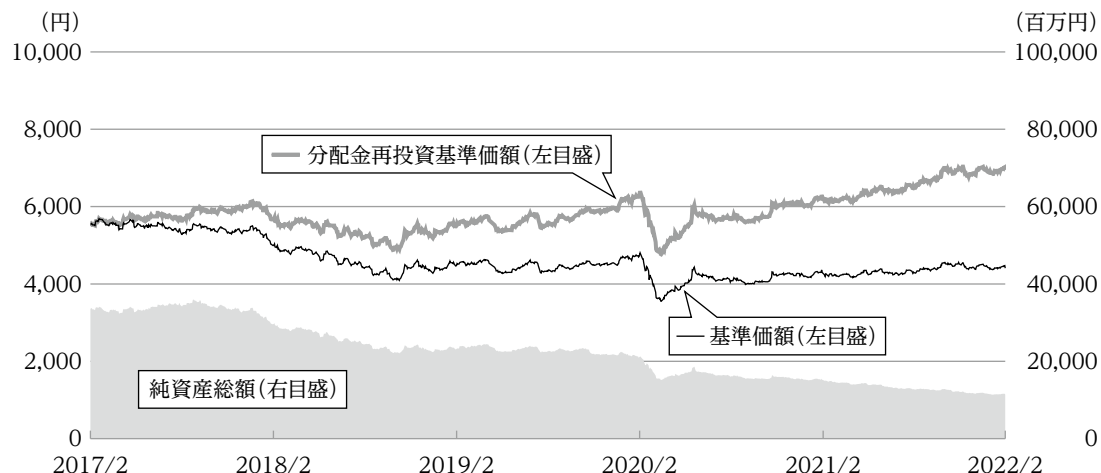
(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移について (2017年2月20日～2022年2月18日)



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについては、お客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様1人ひとりの損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額は、2017年2月20日の値が基準価額と同一になるように指数化しております。

決算日		2017/2/20	2018/2/19	2019/2/18	2020/2/18	2021/2/18	2022/2/18
基準価額	(円)	5,546	4,993	4,465	4,697	4,302	4,409
期間分配金合計（税引前）	(円)	—	690	360	360	360	360
分配金再投資基準価額の騰落率(%)		—	2.2	-3.2	14.0	-0.0	11.3
純資産総額	(百万円)	33,541	29,545	23,075	20,932	15,212	11,398

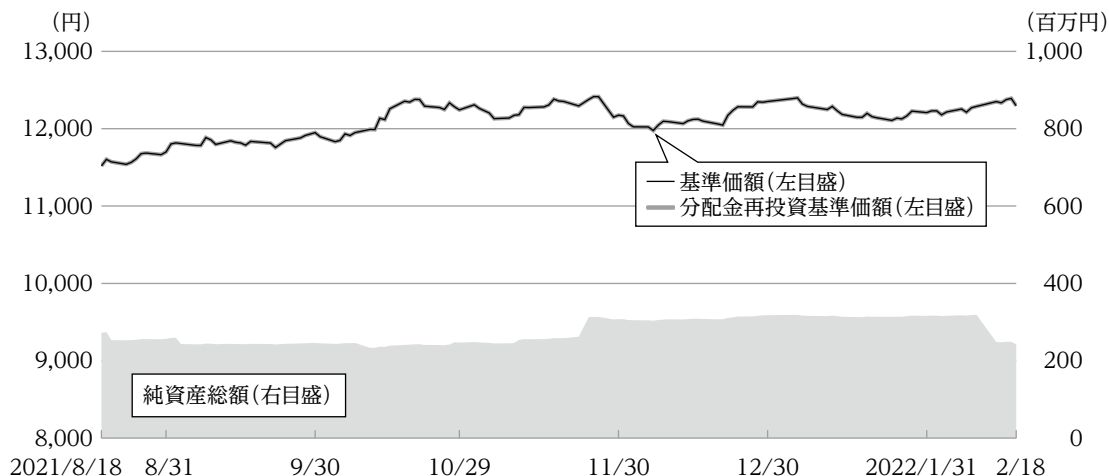
*当ファンドの運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

運用経過

(年2回決算型)

基準価額等の推移について

(2021年8月19日～2022年2月18日)



第8期首	11,519円
第8期末	12,296円 (既払分配金0円)
騰落率	6.7% (分配金再投資ベース)

(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについては、お客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様1人ひとりの損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額は、期首の値が基準価額と同一になるように指数化しております。

基準価額の主な変動要因

当期の基準価額は上昇しました。

上昇要因

・インドネシアルピアが対円で上昇したこと。

1万口当たりの費用明細

(2021年8月19日～2022年2月18日)

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	73円	0.604%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は、12,104円です。
(投信会社)	(24)	(0.198)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(48)	(0.394)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、 購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(2)	(0.013)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	5	0.039	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監査費用)	(4)	(0.035)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(印刷)	(0)	(0.003)	目論見書および運用報告書等の法定開示書類の作成費用等
合計	78	0.643	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

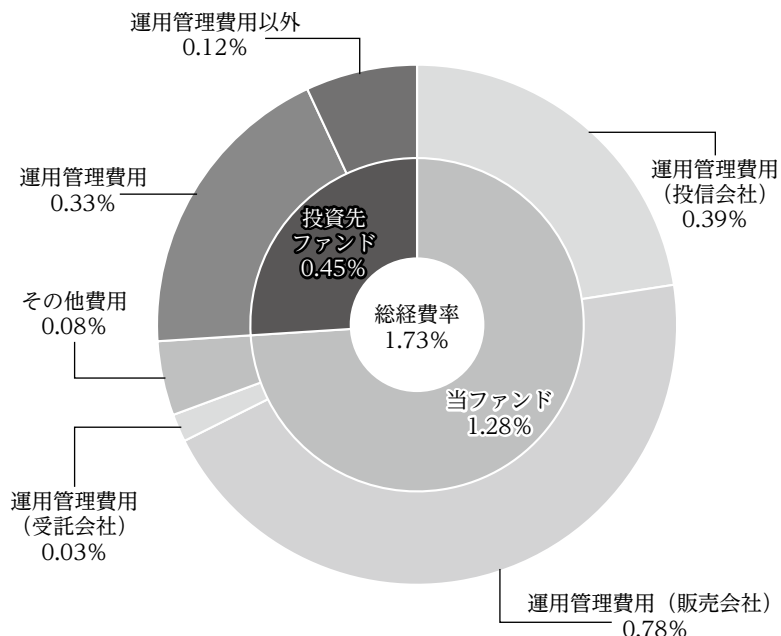
(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注4) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(参考情報)

■総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.73%です。



総経費率 (①+②+③)	1.73%
①当ファンドの費用の比率	1.28%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.33%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.12%

(注) ①の費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移について (2017年2月20日～2022年2月18日)



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについては、お客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様1人ひとりの損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額は、設定日の値が基準価額と同一になるように指数化しております。

決算日		2018/2/28 設定日	2019/2/18	2020/2/18	2021/2/18	2022/2/18	—
基準価額	(円)	10,000	9,816	11,214	11,150	12,296	—
期間分配金合計(税引前)	(円)	—	0	0	0	0	—
分配金再投資基準価額の騰落率(%)		—	-1.8	14.2	-0.6	10.3	—
純資産総額	(百万円)	12	57	316	280	242	—

(注) 設定日の基準価額は設定時の価額を、設定日の純資産総額は設定当初の元本額を記載しております。

* 当ファンドの運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

インドネシア債券市場

当（作成）期初から2021年11月中旬にかけては、米連邦準備制度理事会（FRB）による量的緩和の縮小（テーパリング）の決定などを受けて米国金利の先高観が意識される中でも、良好な経済指標や債券の需給環境が比較的タイトであることなどを背景に国内投資家から強い需要が見られ、インドネシア債券市場は堅調（利回りは低下）に推移しました。しかし、12月にはFRBの金融政策正常化への加速が意識され米国金利は急上昇し、インドネシアの債券利回りも上昇しました。米国債利回りはFRBの早期利上げ観測を背景に2022年1月以降も上昇を続けましたが、インドネシアの債券利回りは12月中旬以降上昇が一服し、その後は狭いレンジでの推移となりました。2月初めから当（作成）期末にかけては、欧米の債券利回りはインフレ上昇の懸念から一段と上昇し、インドネシアの債券利回りもやや上昇しました。

為替市場

インドネシアルピアは対米ドル、対円ともに上昇しました。

米国の金融引き締め観測が台頭する中でも、世界的な商品市況の上昇と好調な輸出需要に支えられてインドネシアの2021年経常収支は10年ぶりの黒字となるなど、好調なマクロ環境を背景にルピアは堅調な動きとなりました。12月以降は米国金利が大幅に上昇する中でも、ルピアは狭いレンジで推移しました。

国内債券市場

日本国債の価格は上昇（利回りは低下）しました。

当（作成）期初から2021年12月中旬にかけて狭いレンジでの推移となりましたが、12月下旬以降当（作成）期末にかけてインフレ懸念の高まりなどを背景に欧米の債券利回りは上昇し、日本国債利回りも上昇しました。

ポートフォリオについて

イーストスプリング・インドネシア債券オープン (毎月決算型) / (年2回決算型)

主要な投資対象のひとつであるイーストスプリング・インベストメンツ・インドネシア・ボンド・マスター・ファンド (以下「インドネシア・ボンド・マスター・ファンド」ということがあります。) の組入比率を高位に保つよう運用しました。

インドネシア・ボンド・マスター・ファンド

主としてインドネシアの債券に投資を行い、インカムゲインの確保とトータル・リター

ンの最大化を目指して運用を行いました。

当 (作成) 期は通貨の上昇が基準価額のプラス要因となりました。

イーストスプリング国内債券ファンド (国債) 追加型 I (適格機関投資家向け)

主としてデュレーションをコントロールすることによって、ベンチマークであるICE BofA 国債インデックス (1-10年債) を中長期的に上回ることを目指して運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドの運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

分配金額は、基準価額水準・市況動向等を勘案して、以下の通りとさせていただきます。なお、留保益の運用につきましては、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

分配原資の内訳（1万口当たり、税引前）
 (毎月決算型)

項目	第113期	第114期	第115期	第116期	第117期	第118期
	2021年8月19日 ～2021年9月21日	2021年9月22日 ～2021年10月18日	2021年10月19日 ～2021年11月18日	2021年11月19日 ～2021年12月20日	2021年12月21日 ～2022年1月18日	2022年1月19日 ～2022年2月18日
当期分配金 (円)	30	30	30	30	30	30
(対基準価額比率) (%)	0.683	0.656	0.660	0.680	0.680	0.676
当期の収益 (円)	30	30	30	30	30	30
当期の収益以外 (円)	—	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額 (円)	528	534	536	538	540	544

(年2回決算型)

項目	第8期
	2021年8月19日 ～2022年2月18日
当期分配金 (円)	—
(対基準価額比率) (%)	—
当期の収益 (円)	—
当期の収益以外 (円)	—
翌期繰越分配対象額 (円)	4,022

(注1) 「当期の収益」と「当期の収益以外」は円未満は切捨てて表示しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注3) —印は該当がないことを示しています。

今後の運用方針について

イーストスプリング・インドネシア債券オープン (毎月決算型) / (年2回決算型)

主要な投資対象のひとつであるインドネシア・ボンド・マスター・ファンドの組入比率を高位に保つことを基本とします。

インドネシア・ボンド・マスター・ファンド

米国の利上げ、FRBのバランスシート縮小の時期やペース、規模といった不確実性の高まりを背景に今後も市場のボラティリティが上昇する可能性は高いとみています。インドネシアの利上げについては2022年前半に実施される可能性があると考えていますが、インドネシア国内のマクロ環境は安定しており、積極的な引き締めに踏み切る可能性は低いと考えています。インドネシア債券市場は、依

然として米国との実質利回りの差が魅力的であること、さらに外国人投資家の保有比率が低位であることなどから投資環境は良好だと思われます。しかし、米国での更なるインフレ加速を背景にFRBが大幅な金融引き締めを行うなどした場合は、投資家のリスク回避姿勢が強まる可能性もあり注意が必要です。

イーストスプリング国内債券ファンド (国債) 追加型 I (適格機関投資家向け)

今後もファンダメンタルズ分析、金利動向予測、イールドカーブ分析等を行い、ベンチマークであるICE BofA 国債インデックス (1-10年債) を中長期的に上回ることを目指した運用を行っていく所存です。

お知らせ

該当事項はありません。

当ファンドの概要

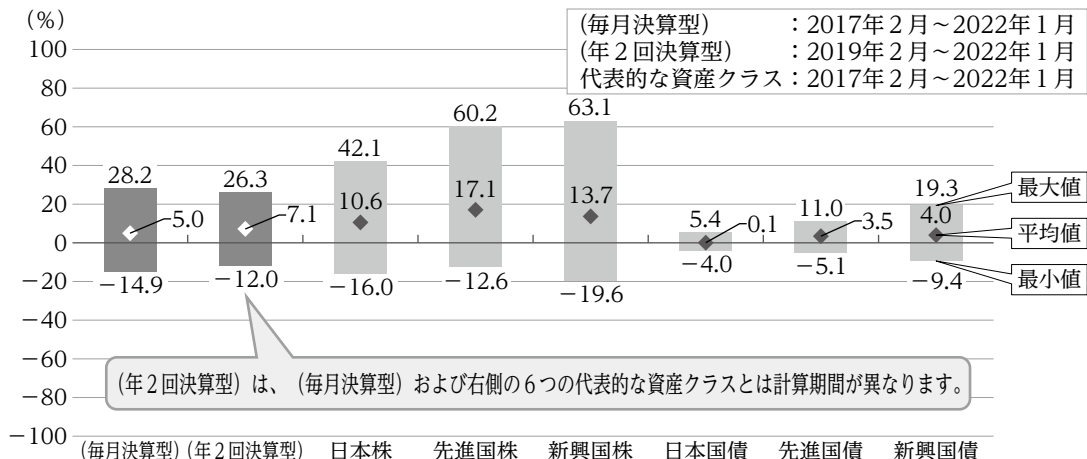
商品分類	追加型投信／海外／債券
信託期間	(毎月決算型) 無期限 (2012年2月29日設定) (年2回決算型)無期限 (2018年2月28日設定)
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、主としてインドネシアの債券に投資を行うことにより、インカム・ゲインの確保と中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	外国投資信託「イーストスプリング・インベストメンツ・インドネシア・ボンド・マスター・ファンド」(円建て)の受益証券およびわが国の証券投資信託「イーストスプリング国内債券ファンド(国債)追加型I(適格機関投資家向け)」の受益証券(振替受益権を含みます。)を主要投資対象とします。
運用方法	以下の投資制限のもと運用を行います。 <ul style="list-style-type: none">・投資信託証券への投資割合には制限を設けません。・外貨建資産への直接投資は行いません。・株式への直接投資は行いません。
分配方針	(毎月決算型) 毎月18日(休業日の場合は翌営業日) (年2回決算型)毎年2月18日および8月18日(休業日の場合は翌営業日) 各ファンドの毎決算時に、委託会社が基準価額水準・市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は、収益分配を行わないことがあります。

指数に関して

当ファンドの投資対象である「イーストスプリング国内債券ファンド(国債)追加型I(適格機関投資家向け)」のベンチマークについて

ICEデータ・サービスおよびその関連会社は、提供するインデックスデータに関してその継続性、正確性、完全性を保証するものではなく、当該データ提供に係り発生し得る損害についてもその事由の如何を問わず責任を負うものではありません。

(参考情報) 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



※当ファンドと代表的な資産クラスについて、上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を表示し、定量的に比較できるように作成したものです。当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

※すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

※当ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)	株式会社東京証券取引所の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび東証株価指数 (TOPIX) の商標又は標章に関するすべての権利は株式会社東京証券取引所が有しています。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円換算ベース)	MSCI Inc.が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
新興国株	MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円換算ベース)	
日本国債	NOMURA-BPI国債	野村證券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。
先進国債	JPMorganGBIグローバル (除く日本、ヘッジなし・円ベース)	J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表しているインデックスであり、著作権、知的財産権はJ.P. Morgan Securities LLCに帰属します。
新興国債	JPMorganGBI-EM グローバル・ダイバーシファイド (円ベース)	

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しています。「円換算ベース」は、米ドルベースの指数を当社が円換算したものです。

ファンドデータ

(毎月決算型)

当ファンドの組入資産の内容

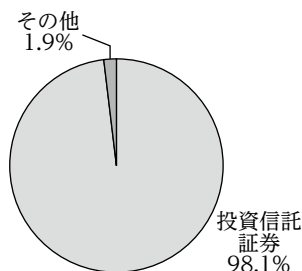
組入ファンド

(組入銘柄数：2銘柄)

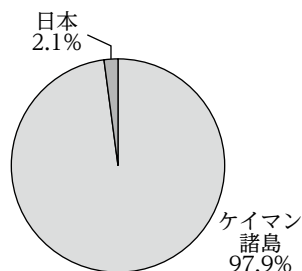
ファンド名	第118期末 2022年2月18日
イーストスプリング・インベストメンツ・インドネシア・ボンド・マスター・ファンド	97.9%
イーストスプリング国内債券ファンド(国債)追加型I(適格機関投資家向け)	0.2%

(注)比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

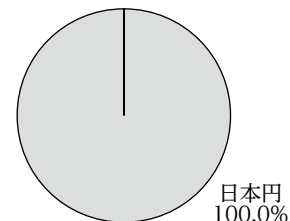
資産別配分



国別配分



通貨別配分



(注)比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

純資産等

項目	第113期末 2021年9月21日	第114期末 2021年10月18日	第115期末 2021年11月18日	第116期末 2021年12月20日	第117期末 2022年1月18日	第118期末 2022年2月18日
純資産総額 (円)	12,638,240,448	12,800,739,686	12,115,686,712	11,596,983,184	11,466,064,562	11,398,410,380
受益権総口数 (口)	28,980,827,050	28,159,020,169	26,823,133,609	26,471,014,328	26,148,936,683	25,849,955,764
1万口当たり基準価額(円)	4,361	4,546	4,517	4,381	4,385	4,409

* 当作成期中(第113期~第118期)において追加設定元本額は638,096,927円、一部解約元本額は4,504,955,277円です。

ファンドデータ

(年2回決算型)

当ファンドの組入資産の内容

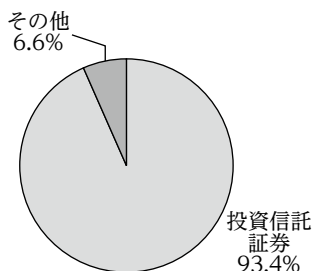
組入ファンド

(組入銘柄数：2銘柄)

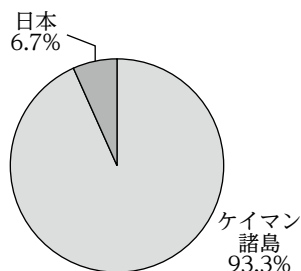
ファンド名	第8期末 2022年2月18日
イーストスプリング・インベストメンツ・インドネシア・ボンド・マスター・ファンド	93.3%
イーストスプリング国内債券ファンド(国債)追加型I(適格機関投資家向け)	0.1%

(注)比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

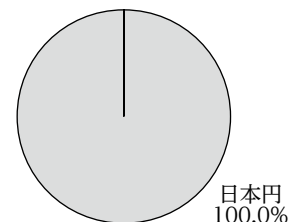
資産別配分



国別配分



通貨別配分



(注)比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

純資産等

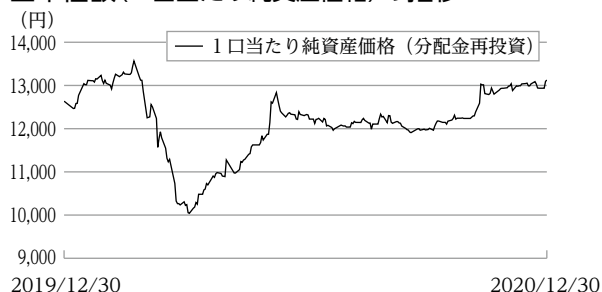
項目		第8期末 2022年2月18日
純資産総額	(円)	242,427,370
受益権総口数	(口)	197,163,692
1万口当たり基準価額	(円)	12,296

*当期中において追加設定元本額は66,563,011円、一部解約元本額は105,614,809円です。

組入上位ファンドの概要

<イーストスプリング・インベストメンツ・インドネシア・ボンド・マスター・ファンド>

基準価額(1口当たり純資産価格)の推移



1万口当たりの費用明細

(2020年1月1日～2020年12月31日)

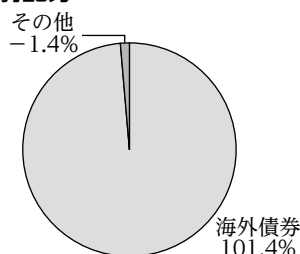
当該期間のFinancial Statements (監査済み) には、1万口当たりの費用明細が開示されていないため、記載できません。

組入上位10銘柄(組入銘柄数：37銘柄)

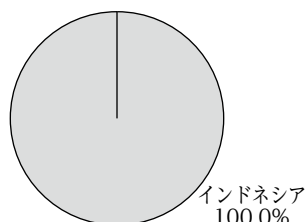
(2020年12月31日現在)

銘柄名	種別	利率	償還日	国・地域	比率
INDONESIA GOVERNMENT	国債	8.375%	2034/3/15	インドネシア	7.1%
INDONESIA GOVERNMENT	国債	7.000%	2030/9/15	インドネシア	6.3%
INDONESIA GOVERNMENT	国債	8.375%	2026/9/15	インドネシア	5.9%
INDONESIA GOVERNMENT	国債	6.500%	2025/6/15	インドネシア	5.8%
INDONESIA GOVERNMENT	国債	8.375%	2024/3/15	インドネシア	5.7%
INDONESIA GOVERNMENT	国債	9.000%	2029/3/15	インドネシア	5.4%
INDONESIA GOVERNMENT	国債	7.000%	2027/5/15	インドネシア	5.0%
INDONESIA GOVERNMENT	国債	8.250%	2029/5/15	インドネシア	4.8%
INDONESIA GOVERNMENT	国債	6.125%	2028/5/15	インドネシア	4.3%
INDONESIA GOVERNMENT	国債	8.250%	2036/5/15	インドネシア	4.1%

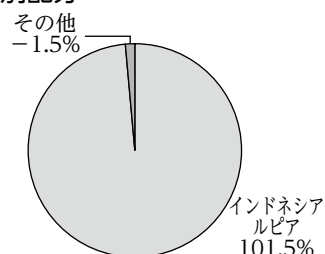
資産別配分



国別配分



通貨別配分



(注1) 組入ファンドのデータは、当社で入手可能な時点のもの(監査済みおよび同時点の関連データを含む)を使用しています。

(注2) 組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は組入ファンドの純資産に対する割合、国別配分の比率は組入銘柄の総額に対する割合です。

(注3) 資産別配分において、未払金等の発生により「その他」の数値がマイナスになることがあります。

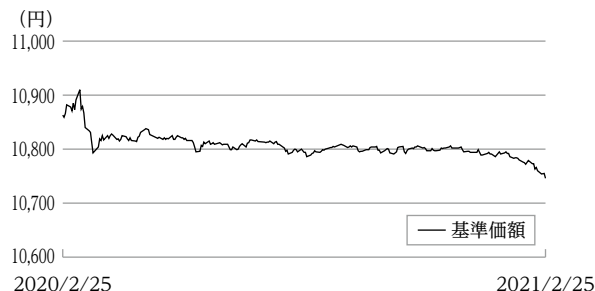
(注4) インドネシアルピア以外の通貨建ての債券に投資を行う場合には、原則として、実質的にインドネシアルピア建てとなるよう為替取引を行いますので、通貨別配分は当該為替取引を考慮し算出しています。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

組入上位ファンドの概要

<イーストスプリング国内債券ファンド（国債）追加型 I（適格機関投資家向け）>

基準価額の推移



1万口当たりの費用明細

(2020年2月26日～2021年2月25日)

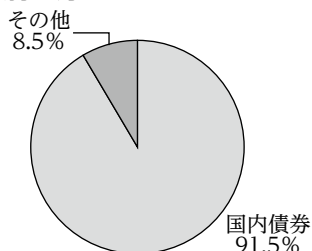
項目	金額	比率
(a) 信託報酬	24円	0.220%
（投信会社）	(15)	(0.143)
（販売会社）	(2)	(0.022)
（受託会社）	(6)	(0.055)
(b) その他費用	2	0.014
（監査費用）	(2)	(0.014)
合計	26	0.234

組入上位10銘柄（組入銘柄数：14銘柄）

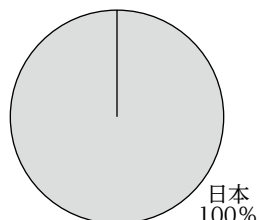
（2021年2月25日現在）

銘柄名	種別	利率	償還日	国・地域	比率
第359回利付国債（10年）	国債	0.1%	2030/6/20	日本	13.1%
第87回利付国債（20年）	国債	2.2%	2026/3/20	日本	8.9%
第354回利付国債（10年）	国債	0.1%	2029/3/20	日本	8.6%
第91回利付国債（20年）	国債	2.3%	2026/9/20	日本	8.2%
第63回利付国債（20年）	国債	1.8%	2023/6/20	日本	7.6%
第351回利付国債（10年）	国債	0.1%	2028/6/20	日本	7.3%
第67回利付国債（20年）	国債	1.9%	2024/3/20	日本	6.9%
第80回利付国債（20年）	国債	2.1%	2025/6/20	日本	6.0%
第53回利付国債（20年）	国債	2.1%	2021/12/20	日本	5.9%
第117回利付国債（20年）	国債	2.1%	2030/3/20	日本	4.7%

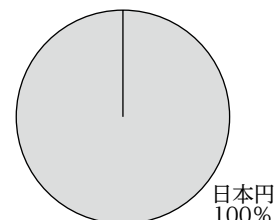
資産別配分



国別配分



通貨別配分



（注1）1万口当たりの費用明細の項目の概要および注記については、2ページの「1万口当たりの費用明細」の記載をご参照ください。

（注2）組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は組入ファンドの純資産総額に対する割合、国別配分の比率は組入銘柄の総額に対する割合です。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）でご覧いただけます。